

ポンクリ・フェス2026

“Born Creative” Festival 2026
アーティスティック・ディレクター：藤倉大

楽しめる“新しい音楽”的フェス「ポンクリ」 その現在と未来

ジャンルや形式を超えた新しい音楽ばかりを取り上げる音楽フェスが日本に、ある。
大きな劇場を舞台に、世界中から音楽家が集まるフェスは、今回で8回目を迎える。

東京芸術劇場で連続開催してきた「Born Creative Festival」(ボーン・クリエイティブ・フェスティバル、通称ポンクリ)。2017年、同劇場がロンドン在住の作曲家 藤倉大に「一度だけ劇場を自由に使って音楽祭をするとしたら、どんなことをしたいですか?」と持ちかけたことから始まったこのフェスティバル、当初は1回限りと考えられていた企画だったが、観客やアーティストからの反響は予想をはるかに上回り、気づけば10年近くもその場を維持してきた。しかしながら2026年3月1日、8回目の開催をもって現行の形式にひと区切りをつけることになったという。

ポンクリには、常に“制約”がつきまとい、予算は潤沢ではなかった。それでも、国内外の演奏家たちは毎年のように集まつた。ポンクリの



©Seiji Okumiya

アーティスティック・ディレクターを務める藤倉は、その理由を静かに語る。
「自分が本当にやりたい音楽を、そのまま持つて来られる場だったからだと思います」
「仕事としてポンクリに来る人はいないんです。だから“作りたい音楽を作りに行く”というコアの部分の理由しか存在しないんです」

演奏家がポンクリの舞台で響かせるのは彼らが“いま、提示したい音”だけになる。そこには華美な飾りはない。それによってこの稀有なフェスは海外でも高く評価されることとなり、世界中の音楽人の間で「ポンクリ」の知名度は大きくアップしつつある。

しかしそれではなぜ、いま、ひと区切りなのか。

形式を保つために力を注ぐのではなく、あえて場所を明け渡す。そうすることで、次なる新しい表現が自然に芽を出す余地ができる。“Born Creative”は、フェスの名前ではなく、その“精神”だ。必要とされる場所があれば、また別の形で現れるに違いない。藤倉をはじめとするフェスのクルーたちはそのための土壤を耕し、種を蒔いたのだ。

ポンクリは、“新しい音が生まれる瞬間”的だ。そして劇場にひとつの記憶とその精神を残す。

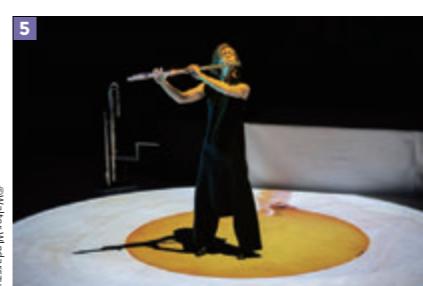
最終年となる2026年の出演者は多彩だ。アメ

リカのフルーティスト、クレア・チェイスによる「フルートの部屋」、ノルウェーの革新的音楽家たちが集ってエレクトロ・セッションを繰り広げる「ノルウェーの部屋」はお馴染みとも言えるが、今回は初の参加となるポーランドやスロバキアの新世代たちによる部屋に注目しよう。「ポーランドやスロバキアに何回も足を運んでいて思うのは、東ヨーロッパの勢いがすごいということ。文化・芸術において商業的な成功や集客を念頭に置かない音楽作りなどはもともと東ヨーロッパの文化にあるわけで、こと実験音楽の歴史はこれらの国なくしては語れない」と藤倉は語る。そして日本からは、ポンクリにはなくてはならないアンサンブル・ノマドや伝統楽器を過去から未来へとつなぐユニットJ-TRAD Ensemble MAHOROBAの参加もうれしい。プログラムの最後のロワー広場で行われる、今やお茶の間にもファンが多いものの、もともとはジャズや実験音楽の土壤で活躍してきたギタリスト／ターンテーブリスト／作曲家の大友良英と藤倉の一期一会の即興パフォーマンスによるクロージング・コンサートは絶対に聴き逃せない。

この形式では最後のポンクリだが、しかしそれはあくまでも「第1部・完」ということに過ぎない。我々はまずそのすべてを見届けよう。

文：杉田元一（音楽制作）

コンサート・プログラム



- ① ポーランドの部屋
～弦楽カルテット×電子音×映像★
- ② ノルウェーの部屋～ヤン・バングと仲間たちによるエレクトロ・セッション★
- ③ アンサンブル・ノマドの部屋
～室内楽アラカルト!
- ④ スロバキアの部屋
～クエーサーズ・アンサンブルがやってくる!
- ⑤ フルートの部屋
～奇才クレア・チェイスの妙技★
- ⑥ 子どものためのフルートの部屋★

ワークショップ・プログラム



- ① ノマドと遊ぼう!
～楽器と声でアンサンブル!★
- ② テルミンで遊ぼう!
～トーンマイスター石丸の実験室★

誰でも楽しめる無料プログラム



- ① 電子音楽の部屋★
- ② 大人ポンクリ★



2026年3月1日(日)
10:30~20:00
東京芸術劇場館内各所
詳細はP12、13へ
★=未就学児入場OK



©FathCompany



a 坂本龍一 /
sync /
async
album /
jacket
3



© 佐藤類

- ① アトリウム・コンサート★
- ② syncの部屋★
- ③ クロージング～大友良英スペシャルセッション★

© Yuko Moriyama otocoto